

都市再生整備計画

くまもとがた熊本型コンパクトシティけいせい形成地区
(地方都市リノベーション事業)
(第1回変更)

くまもと熊本県 くまもとし熊本市

平成26年1月

様式1 目標及び計画期間

都道府県名	熊本県	市町村名	熊本市	地区名	熊本型コンパクトシティ形成地区(地方都市リノベーション事業)	面積	1062	ha							
計画期間	平成	24	年度	～	平成	32	年度	交付期間	平成	24	年度	～	平成	28	年度

<p>目標</p> <p>大目標：多核連携型都市(熊本型コンパクトシティ)の実現を目指す。</p> <p>目標-1 商業・業務・文化など様々な機能が集積する中心市街地と、行政・医療・商業など地域の生活サービス機能が充実した地域拠点を核として、これらを結ぶ基幹公共交通軸沿線の居住誘導を図る。 目標-2 中心市街地と地域拠点を結ぶ基幹公共交通軸の利便性と利用環境の向上を図る。</p>
<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体のリノベーション方針(都市構造再編を図るため、都市機能の拡散を防止する等の公的不動産のマネジメントも取り組みを含む)</p> <p>○本市では、これまでの経済成長や人口の集中、車社会の進展等を背景として、市街地が年々郊外に拡大してきており、総合病院や大学などの大規模施設が中心部から郊外へ移転したり、大型商業施設が広幅員道路沿いに立地するなど、集客施設の郊外化が進展している。 中心市街地においては相対的に、小売業における商店数や年間販売額の減少、中心商店街における空き店舗率の上昇、歩行者通行量の減少など、都市活力の低下が懸念されている。</p> <p>○このような現況を踏まえ、「第2次熊本市都市マスタープラン」(平成21年3月策定)において、本市が目指す多核連携の都市構造の基本的なあり方として、熊本城周辺から熊本駅に至る高次な都市機能が集積した中心市街地を中心に、鉄道及び軌道、放射環状の幹線道路網を都市の骨格軸とし、それら骨格軸上にある商業・行政サービスなど生活の利便機能が集積した地域拠点と中心市街地が有機的に連携した都市の構成を目指すものとした。</p> <p>○この方針を受け、中心市街地及び中心市街地と地域拠点を結ぶ基幹公共交通軸のひとつである市電の沿線にあるエリアを中心拠点区域といたうえで、都市の再構築を行う。</p> <p>○さらに本市では、平成24年3月、市中心部の桜町・花畑地区の間に位置し、熊本城へと続く道路(通称シンボルロード)を、「熊本城と庭つづき『まちの大広間』」をコンセプトに、“車社会から、人が中心の社会へ”の転換として道路を歩行者空間化する、『桜町・花畑周辺地区まちづくりマネジメント構想』(=シンボルプロムナード構想)を策定した。 桜町・花畑地区については、現在、本市が進めている「中心市街地の再デザイン」において極めて重要度が高い地区であることから、2つの地区を一体的に捉え、「賑わいと潤いに満ちた上質な都市空間」として整備を進め、地区全体として街の賑わいを生み出す都市空間としての機能を最大化するという“新たな方向性”を示したところである。 具体的には、花畑地区においては、老朽化等により閉館となっている旧産業文化会館を解体し、その跡地と隣接地を“広場”とすることや、桜町地区においては、選択と集中という観点から、新たな公共施設整備を、再開発事業において整備を計画しているMICE施設に集中させること、などである。 この広場は、桜町再開発事業による施設群とアーケード街との結節空間としての機能を担うことに加え、先に述べたシンボルプロムナードのコンセプト「熊本城と庭つづき『まちの大広間』」をさらに拡大・充実させていくものである。</p>
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>・本市の中心市街地は、日本三名城のひとつであり本市のシンボルである熊本城を擁しており、古くは肥後54万石の城下町として栄え、明治以降も商業、業務、観光、文化、娯楽、官公庁など、様々な活動の中心地として本市及び近隣市町村の核となって発展してきた。 ・現在も、都市規模に比べコンパクトな市街地が形成され、その中心部を発着点とするバスセンターや、市電などの公共交通機関も整備されており、市域はもとより、100万都市圏の業務・消費などの日常生活のみならず、芸術・文化やレクリエーション活動の場ともなっている。 ・しかしながら、本市の人口動態を見ると、平成18年(2006年)までは自然動態の増加が社会動態の減少を上回っていたため増加が続いていたが、平成19年(2007年)には、この傾向が逆転して減少に転じた。その後は再び増加となっているものの、出生数の減少に伴う少子・高齢化は確実に進行しており、全国と同様に65歳以上の高齢者の割合が年々増加する傾向にある。 ・加えて、これまでの経済成長や人口の集中、車社会の進展等を背景として、市街地が年々郊外に拡大してきており、総合病院や大学などの大規模施設が中心部から郊外へ移転したり、大型商業施設が広幅員道路沿いに立地するなど、集客施設の郊外化が進展している。</p>
<p>課題</p> <p>・中心市街地の核となる商業施設・公共施設の整備とあわせて、これらが活用できるネットワークの構築が求められている。 ・古いまちなみなど歴史的資源はまちづくりの中で活かされていないだけでなく、徐々に失われている。中心市街地の核となる施設の整備とともに、市民がまちに対する誇りや愛着を取り戻し、来訪者が回遊して時間消費ができるよう、地域資源を活かしたまちづくりが望まれる。 ・中心市街地の幹線道路の一部ではバリアフリー化や歩道の整備も不十分であり、安心して歩ける歩行者空間の確保が望まれている。 ・自家用車を利用できない高齢者が日常生活に必要なサービスを受けることができるよう既成市街地外縁部における生活サービス機能の確保のほか、中心市街地に集約整備する公共・公益サービスに公共交通を利用してアクセスしやすくなるよう、既成市街地外縁部及び中心市街地の双方において駅・バス停周辺の環境整備を一層推進する必要がある。</p>
<p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>・「第2次熊本市都市マスタープラン」(平成21年3月策定)においては、めざすべき都市構造の将来像として、『豊かな水と緑、多様な都市サービスが支える活力ある多核連携都市』を掲げ、商業・業務・文化など様々な機能が集積する中心市街地を市域及び都市圏全体の拠点とし、その周辺では、行政・商業など地域の生活サービス機能が充実した地域拠点や生活拠点を核として、複数の地域生活圏の形成を図るとしており、地域拠点と中心市街地は利便性の高い公共交通で結ばれ、地域拠点相互も公共交通や幹線道路で結ばれ、地域生活圏が相互に連携した多核連携型の都市構造をめざす、としている。 ・「2期熊本市中心市街地活性化基本計画(熊本地区)」(平成24年2月策定)においては、基本方針として、「人々が活発に交流しにぎわうまちづくり」、「城下町の魅力があふれるまちづくり」、「誰もが気軽に訪れることができるまちづくり」を掲げている。 ・「公共交通グランドデザイン」においては、概ね10年後の公共交通政策に向けての基本的施策の1つとして「基幹公共交通の強化」を掲げ、「既存公共交通機関の機能強化」、「新たな基幹公共交通の整備」、「交通結節点、乗継ポイントの機能強化」を図ることとしている。 ・「くまもと医療都市2012グランドデザイン」においては、本市が約10年後に目指すべき医療の姿として、「最先端の医療技術を発信する九州の医療拠点都市」、「機能分化と連携によって質の高い医療を提供できる都市」、「高齢者や障がい者などが住みながら地域でいきいきと暮らせる都市」を掲げている。</p>

様式2 整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1： 中心市街地と地域拠点の都市機能の向上、及びそれらをつなぐ基幹公共交通軸の周辺地域における生活環境の向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賑わいと潤いに満ちた上質な都市空間を一体的に整備することを最終的な目的とし、花畑地区においては、桜町再開発地区の施設群とアーケード街との結節性を重視することにより、幸島・花畑公園やシンボルプロムナードとの一体性も考慮しながら、オープンスペースの賑わい機能を果たす広場を整備する。 ・熊本市民病院について現地建替えを行い、医療施設の環境改善を図るとともに、救急体制の機能強化や地域医療機関との連携強化を目指す。 ・「水前寺江津湖公園(神水本町地区)」及び「熊本城公園(宮内地区)」を整備し、人々の憩いの場、安らぎの場を提供する。 ・老朽化した道路の舗装及び道路照明の更新を行い、安全で安心な生活環境の向上を図る。 ・熊本博物館を現在の外観を活かし大規模改修し、公開承認施設(国宝や重要文化財を容易に展示できる施設)に向けた機能拡充を行い、時代のニーズの変化や、資料の展示・保存技術の進歩に対応した施設に更新し、中心市街地の教育文化機能の向上及び都市機能の集積に寄与する。 ・既存の市立保育園を、大規模修繕により、多様な保育ニーズへと対応しうる施設へと機能更新させ、計画区域内の子育て環境の整備、更には同区域の居住人口の現状維持に寄与するもの。白山保育園は、育児に悩む保護者が気軽に育児相談できる、プライバシーに配慮した子育て支援室の設置、及び障がい児保育や乳児保育など多様な保育ニーズに対応可能な地域拠点における子育て支援の核となる施設として機能拡充を行う。また、保育園児と地域との交流や、保育所の休園日には地域の活動に活用できる多目的室を整備し、地域交流の拠点としての機能を付加する。健軍保育園では児童発達支援事業専用室の設置、及び障がい児と健常児が快適で安全に保育を享受できる環境を整備し、東区方面における障がい児保育支援の基幹施設へと機能更新をはかる。 ・「水前寺江津湖公園(神水本町地区)」<基幹事業、市>と一体的に「熊本市動植物園給排水設備整備計画(仮)」を実施し、江津湖の環境保全及び江津湖周辺的生活環境を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広場〔花畑地区広場整備事業〕<基幹事業、市> ・地方都市リノベーション事業〔熊本市民病院リノベーション事業〕<基幹事業、市> ・公園〔水前寺江津湖公園(神水本町地区)〕<基幹事業、市> ・公園〔熊本城公園(宮内地区)〕<基幹事業、市> ・道路〔熊本高森線他〕<基幹事業、市> ・道路〔花畑町慶徳堀町第1号線〕<基幹事業、市> ・道路〔新町3丁目第3号線外1路線〕<基幹事業、市> ・道路〔紺屋今町第5号線〕<基幹事業、市> ・道路〔下通1丁目中央街第1号線〕<基幹事業、市> ・道路〔新市街下通2丁目第1号線〕<基幹事業、市> ・既存建造物活用事業(熊本博物館)<基幹事業・市> ・既存建造物活用事業(白山保育園)<基幹事業・市> ・既存建造物活用事業(健軍保育園)<基幹事業・市> ・熊本市動植物園給排水設備整備計画事業(仮)<関連事業・市>
<p>整備方針2： 中心市街地と地域拠点を結ぶ基幹公共交通の利便性と利用環境の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市電の電停までのアクセス環境を向上して公共交通の利用促進を図るため、老朽化した道路の舗装及び道路照明の更新を行う。 ・市電利用者の利便性を向上し、公共交通の利用促進を図るため、電停のバリアフリー化等の改良を行う。 ・バリアフリー化に対応し、誰もが利用しやすい市電とするため、超低床電車を導入する。 ・市電の近接情報等を電停に設置したモニター等で確認できるシステムを導入し、利用者の利便性の向上を図る。 ・「水前寺江津湖公園(神水本町地区)」により公園最寄の市電駅から近距離にある園路について老朽改修を行い、公園の魅力を増進させるとともに、市電を利用して当該公園を訪れる人の利便性を向上させる。 ・「水前寺江津湖公園」<基幹事業、市>と一体的に「熊本市動植物園給排水設備整備計画事業(仮)」を実施し、江津湖の環境整備を進めることで、江津湖及び動植物園を訪れる市民や観光客を誘致するもの。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路〔熊本高森線他〕<基幹事業、市> ・道路〔花畑町慶徳堀町第1号線〕<基幹事業、市> ・道路〔新町3丁目第3号線外1路線〕<基幹事業、市> ・道路〔紺屋今町第5号線〕<基幹事業、市> ・道路〔下通1丁目中央街第1号線〕<基幹事業、市> ・道路〔新市街下通2丁目第1号線〕<基幹事業、市> ・電停改良事業<関連事業、市> ・超低床電車導入事業<関連事業、市> ・市電ロケーションシステム導入事業<関連事業、市> ・公園〔水前寺江津湖公園(神水本町地区)〕<基幹事業、市> ・熊本市動植物園給排水設備整備計画事業(仮)<関連事業・市>
<p>事業実施における特記事項</p>	
<p>〔区域設定の考え方〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市では、中心市街地及び15の地域拠点を設定し、各地域拠点と中心市街地をつなぐ8軸を基幹公共軸と位置づけて、多核連携都市(熊本型コンパクトシティ)の実現に向け取り組んでいる。 ・今回の整備計画では、中心市街地及び中心市街地と地域拠点を結ぶ基幹公共軸であり定時性が高い交通手段として、市民の通勤・通学に広く利用されているほか、熊本城と相まって本市をイメージさせる観光資源ともなっている市電の沿線にある区域を計画エリアと設定し、先行的に整備を行うものである。 <p>〔交付期間中の計画の管理について〕</p> <p>本計画に掲げた各事業を円滑に進めるとともに、目標達成に向けて確実な成果をあげるために、庁内に設置した横断的な組織により、計画の進捗管理や事業間の調整を行う。</p>	

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	6,186	交付限度額	3,093	国費率	0.5
うち、社会資本整備総合交付金対象事業 計	6,186	うち、社会資本整備総合交付金対象事業 計	3,093		
うち、地域自主戦略交付金対象事業 計	0	うち、地域自主戦略交付金対象事業 計	0		

(金額の単位は百万円)

基幹事業①社会資本整備総合交付金														
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路		(市)花畑町慶徳堀町第1号線	熊本市	直	280m	H24	H24	H24	H24	34	34	34		34
		(市)新町3丁目第3号線外1路線	熊本市	直	180m	H24	H27	H24	H27	8	8	8		8
		(市)紺屋今町第5号線	熊本市	直	204m	H24	H24	H24	H24	21	21	21		21
		(市)下通1丁目中央街第1号線	熊本市	直	110m	H24	H27	H24	H27	8	8	8		8
		(市)新市街下通2丁目第1号線	熊本市	直	130m	H24	H24	H24	H24	5	5	5		5
		(市)湖東2丁目若葉3丁目第1号線	熊本市	直	416m	H24	H24	H24	H24	24	24	24		24
		(主)熊本高森線他	熊本市	直	1600基	H24	H28	H24	H28	163	163	163		163
公園		水前寺江津湖公園(神水本町地区)	熊本市	直	7,352㎡	H25	H28	H25	H28	284	284	284		284
		熊本城公園(宮内地区)	熊本市	直	400㎡	H24	H27	H24	H27	32	32	32		32
古都及び緑地保全事業														
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム														
地域生活基盤施設														
		花畑地区広場整備事業	熊本市	直	610㎡	H25	H30	H25	H27	1,525	1,525	1,525		1,525
高質空間形成施設														
高次都市施設														
地方都市リノベーション推進施設														
		熊本市民病院リノベーション事業	熊本市	直	1.4ha	H24	H32	H24	H28	6,560	2,100	2,100		2,100
既存建造物活用事業														
		熊本博物館	熊本市	直	14,000㎡	H27	H28	H27	H28	1,708	1,708	1,708		1,708
		白山保育園	熊本市	直	516㎡	H26	H27	H26	H27	148	148	148		148
		健軍保育園	熊本市	直	697.3㎡	H27	H28	H27	H28	126	126	126		126
生活拠点施設														
既存建造物活用事業														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
バリアフリー環境整備促進事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業		拠点開発型												
		沿道等整備型												
		密集住宅市街地整備型												
		耐震改修促進型												
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										10,646	6,186	6,186	0	6,186

基幹事業②地域自主戦略交付金

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路														
公園														
河川														
下水道		-			-									
合計										0	0	0	0	0

※交付期間内事業期間は平成24年度以降を記載

※H24以降を記載

※H24以降分を記載

基幹事業 総計(①+②)

総計										6,186	6,186	0	6,186
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-------	-------	---	-------

…A'

…A''

…A=A'+A''

